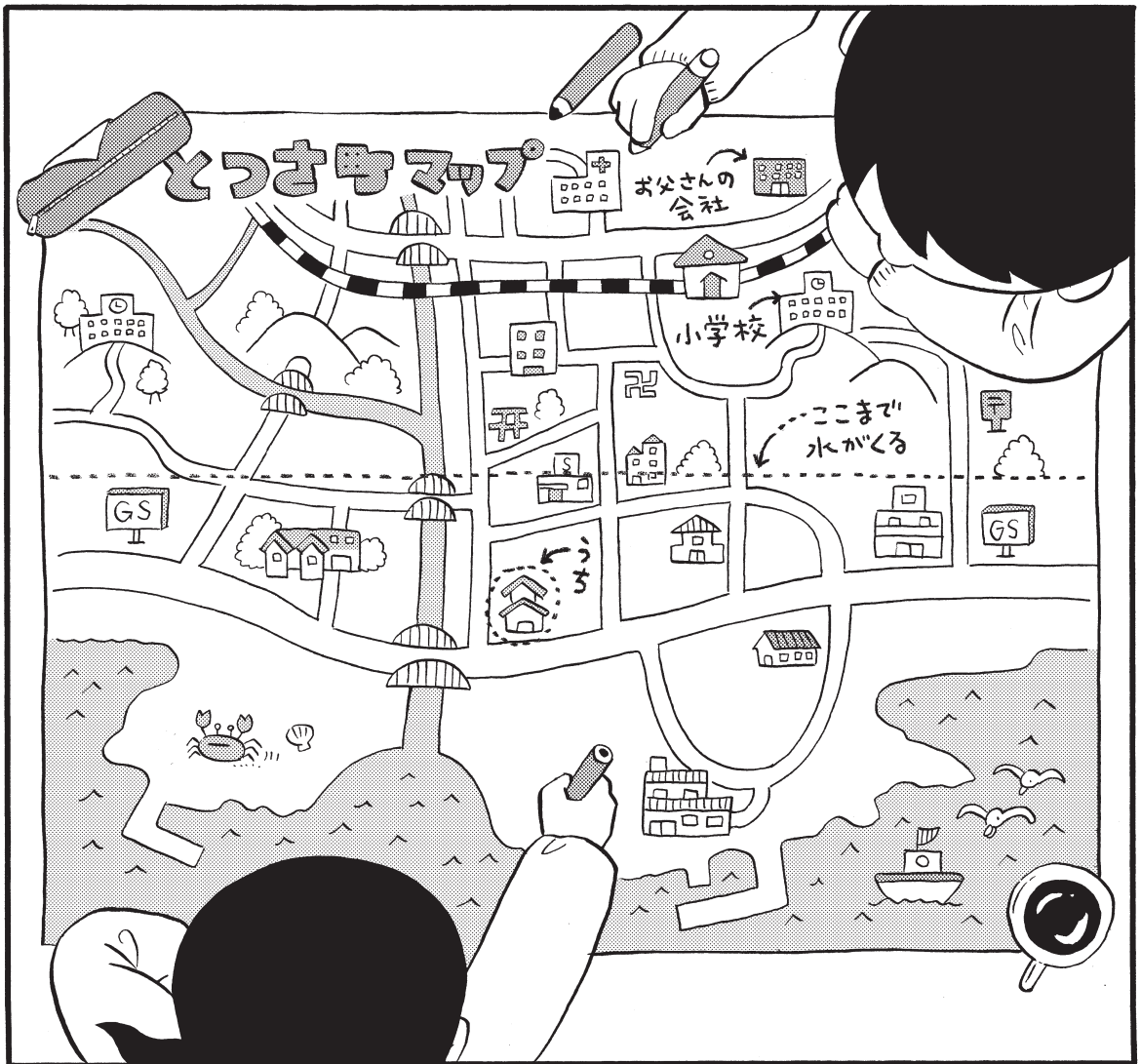


さいがい そな
[災害への備え]

ひなん みち かんが
避難する道を考えておく

- ▶ どの道を通るか家族で決めておく
- ▶ 危ない場所がないか確認しておく
- ▶ 実際に歩いてみる



避難する道を考えておく

■ 状況シートの説明



▶ 場面ごとの説明

- ① 地震がおさまり、外では津波警報のサイレンが鳴っています。みさきちゃんも準備ができ、お母さんが言いました。「よし、避難しましょう。」「うん」とみなとくん、みさきちゃん。3人は避難しようとしています。
- ② 「どこへ行ったらいいの?」と、みさきちゃんが聞きました。でも、お母さんとみさきちゃんはどこへ行ったらいいのかわかりません。
- ③ みなとくんが自信満々の表情で言いました。「〇〇〇〇〇」

▶ セリフの例 (行動)

「たしか小学校が避難所だったよね」
「高い所の方がいいんじゃないかなあ」

▶ 発問例

- ・ みなとくんの家族のようにならないためには、どうすればいいですか?
- ・ 避難場所を覚えておく他に、避難する時に大切なことは何ですか?

■ 教訓シートの説明



▶ どの道を通るか家族で決めておく

- ・ 避難場所や避難経路をあらかじめ決めておくことが大切です。
- ・ なるべく安全で広い道を選びましょう。
- ・ 外出先で地震や津波が起こるかもしれません。いつも、どこへ避難すればいいか考えるように意識しましょう。

▶ 危ない場所がないか確認しておく

- ・ 地震が起こると、ブロック塀が崩れたり、自動販売機が倒れたり、道路が陥没したりします。
- ・ 避難する道に、このような危険な場所がないか確認しておきましょう。
- ・ 避難する時は、危ない場所に気をつけて歩きましょう。

▶ 実際に歩いてみる

- ・ 避難する道を決めたら、実際に歩いてみましょう。
- ・ 何分くらいかかるか、危ない場所はどこか、確認しましょう。
- ・ 考えていたルートより早く避難できる道が見つかるかもしれません。
- ・ 実際に歩いてみた後、もう一度家族と話し合って避難するルートを決めましょう。

■ 東日本大震災の教訓

津波はどこまで来るか予想できません。「避難先を複数想定するようにした」という人もいます。また、被災体験から伝えたいこととして、「自分の住んでいる場所が、海から近いのか遠いのか、高いのか低いのか、知ることが大事」「子どもには、避難ルートを自分で考えて判断できるようになってもらいたい」などが挙げられました。